

大阪市立聖賢小学校蔵「室戸台風被害関連写真」について

木谷 幹一*

I. はじめに

昭和9 (1934) 年9月21日に大阪市内を襲った室戸台風は、小学生の登校時間帯に通過し、市内の小学校に通学する269名の児童の命を奪った¹⁾。なかでも大阪市立鯉江第二尋常小学校 (現聖賢小学校) では22名の児童の命が奪われ、大阪市立鶴橋第二尋常小学校 (現北鶴橋小学校) の67名、鯉江第三尋常小学校 (現今福小学校) の33名に次いで市内尋常小学校第3番目の大惨事となった¹⁾。

本稿は、こうした被害の実態を写した大阪市立聖賢小学校が所蔵する室戸台風被害写真 (以下「被害写真」と呼ぶ) を紹介するとともに、被害の実態について述べる。

大阪市立聖賢小学校は、上町台地東方の河内平野に位置している²⁾。具体的には、旧大和川の堤外地または流

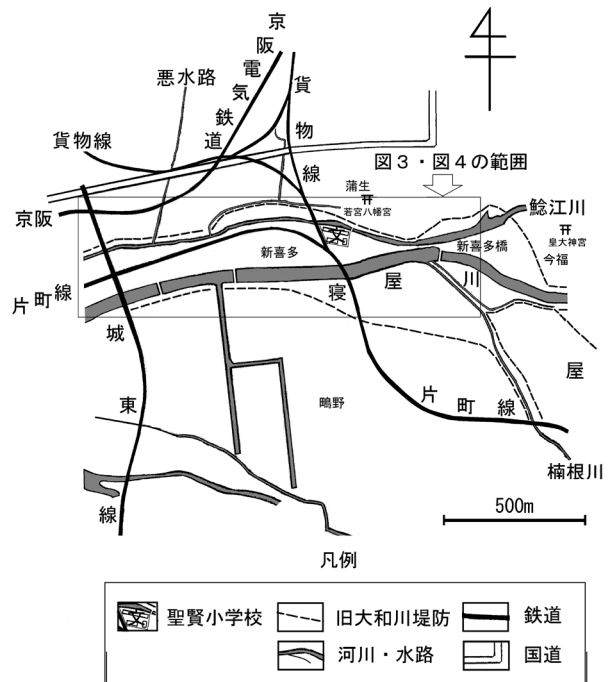


図2 聖賢小学校位置図

大日本帝国陸地測量部 昭和4年発行「大阪東部」1万分の1の地形図から作成した。

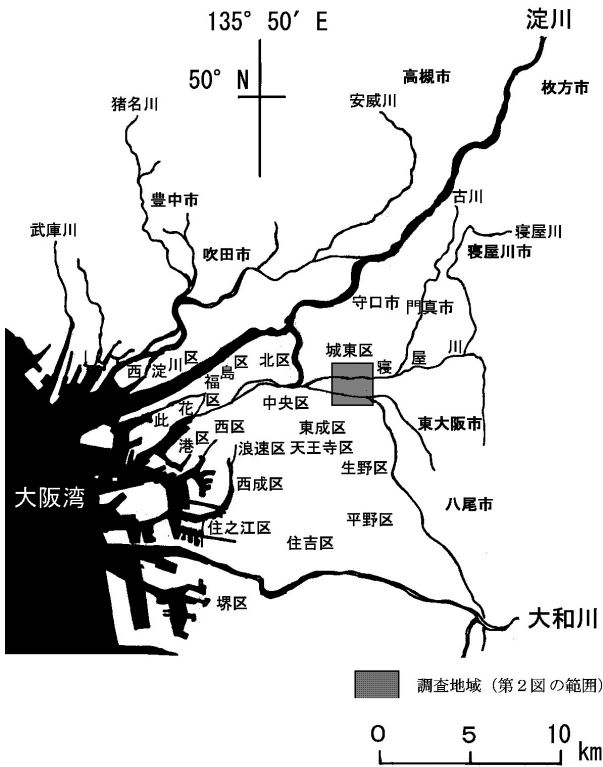


図1 地域概観図

作場³⁾が宝永4 (1704) 年の大和川付替に伴って水量が減り、後に新田として開発され新喜多新田と呼ばれた場所に立地している⁴⁾ (図1および図2参照)。

大阪市都市計画局所蔵の昭和3 (1928) 年10月撮影の航空写真 (図3) や昭和4 (1929) 年12月発行の1万分の1の地形図 (図4) によると、昭和9年当時の校地は、現在の北側半分のみであったことがわかる。被災当時、淀川左岸の悪水路の一つである旧鯉江川左岸際に植樹されている樹木 (柳カ) 付近に北側校舎があり、北側校舎の向いには南側校舎、そして東南隅にも校舎が建っていた。東南隅の校舎は、後述する被害写真において「残った校舎」または「残存玄関と校舎」と説明されている。

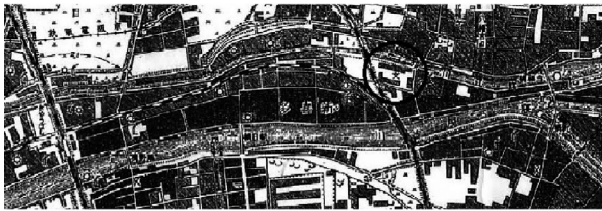
聖賢小学校蔵の室戸台風被害写真は、2つの写真集から構成されている。1つは「室戸台風 (昭和九年) 写真集」である。これは、グリーンファイル (フジフィルム製) に写真 (120 mm × 180 mm) が整理されており、

* 大阪市立成育小学校



500m

図3 大阪市立聖賢小学校付近の航空写真
大阪市都市計画局所蔵の昭和3（1928）年10月撮影の航空写真から作成した。○は大阪市立聖賢小学校。



500m

図4 聖賢小学校付近の地図
大日本帝国陸地測量部 昭和4年発行「大阪東部」1万分の1の地形図から作成した。○は大阪市立聖賢小学校。

写真には撮影者による解説文が付されている。撮影者は^{なまづえ}鯉江第二尋常小学校第1回卒業生（大正10年3月24日卒）の高橋正一氏であり、「満50年間秘蔵のフィルムより作成す」と後記されている。よって、昭和58（1983）年9月21日に^{せいけん}聖賢小学校で行われた「室戸台風遭難者追悼の会」、すなわち五十回忌に持ちこまれた写真アルバムと考えられる。奥付の「関西地方風水害 鯉江第二尋常小学校・倒壊・取片付 昭和九年九月廿一日全廿四日」という記述から、撮影期間は昭和9年9月21日から24日であることがわかる。（写真1～27）

もう一つは、^{せいけん}聖賢小学校で昭和58年9月21日に開催された「室戸台風遭難者追悼の会」のファイルの写真（サイズは統一されていない）である（写真10、16、28、29、30）。これには撮影日、写真タイトルならびに解説文が付されている。これらのうち、写真10と写真16が「室戸台風（昭和九年）写真集」と重複しており、写真28～30は撮影者不明である。

II. 「室戸台風（昭和九年）写真集」の撮影日と撮影地点

「室戸台風（昭和九年）写真集」の27枚には撮影期間の記載はあるが、個々の写真の撮影日が記されていない。そこで、当時^{なまづえ}鯉江第二尋常小学校の教員として被

災現場に立ち会った竹神稲二郎の手記である「昭和9年室戸台風による遭難の想い出」⁵⁾を参考に撮影日を検討した。この文献は「室戸台風遭難者追悼の会」、つまり五十回忌に合わせてまとめられたことが、昭和58年9月20日の大阪毎日新聞夕刊の記事で確認できる。

その結果、「室戸台風（昭和九年）写真集」のうち、写真1～8が9月21日午前台風通過後の被害写真、写真9が23日午前の片づけ作業写真、写真10が同日の婦人会炊き出し、写真11～12が同日の片づけ写真、写真13が同日午後の奉安庫確認写真、写真14～24が23日から24日の片づけ写真、写真25～27が24日の初登校写真であることが判明した。なお写真25～27は被災した^{なまづえ}鯉江第二尋常小学校地の写真でなく、近隣の土地の風景である⁷⁾。

写真の撮影地点についてみると、東南隅の校舎の2階から撮影された写真（写真1、4、5、6、9、17、18、19、24、29）が10枚であった。また東南隅の校舎の東（校地外）には大きな煙突（丸初製紙場跡地カ）が写っている（写真7、12、20、22、28）ことから、撮影方向を推定することが可能である。また、小学校名の由来になった^{せいけん}聖賢橋も写っている（写真6、10）。

III. 「室戸台風被害関連写真」とその解説文について

「室戸台風（昭和九年）写真集」ならびに「室戸台風遭難者追悼の会」に記されていたに解説文は次の通りである。なお、下線付きの文章が「室戸台風遭難者追悼の会」の写真のタイトルと解説文である。

1. 九月二十一日残った校舎の二階の窓硝子に吹き付けられた泥砂、硝子を通して前方が見えない
2. 残った校舎と倒壊した校舎
3. 倒壊した校舎の下敷となって圧死した先生と生徒は24名と判明した
4. 颱風のものすごさ！どこから手をつけようかー
5. 倒壊した校舎の木材や瓦で足を入れる餘地もない
6. 残った校舎の二階から^{せいけん}聖賢橋付近を望む
7. 倒壊して見る影もない北側校舎
8. 青年団員も召集されたが手のつけようもない
9. 青年団員はじめに郷軍人も召集され有志方が自発的に整理に協力された
10. ご婦人方も自発的に協力され昼食のにぎり飯には

- げまれた
- 昭9. 9. 23 跡片づけ炊出 婦人会の方々
- 右上の橋が聖賢橋で炊出は校地東側の空地。道の西側が校地。
11. 運動場はやゝ片づけられたが取り除かれた材木は山とつまれる
 12. 少しは片付いたようだが材木の搬出はまだゝ
 13. 御眞影の奉安庫（?）
 14. 取除きの建物は最後の手段としてロープで引倒されて除去
 15. ボーイスカウトの人達も協力した
 16. 校舎の下から出て来た本や練習帖は青年団員によりまとめられた（お昼の小休止のとき）
- 昭9. 9. 24 残存玄関の入口
- 跡かたづけで掘り出された学用品を集め、青年学校生徒が立番している。遭難者の遺品もこの中に……。小黒板の掲示は、ツブレタ校舎ノ下ジキニナツテキル本や練習帖ハカタヅケガスンダラオカヘシイタシマス。
17. 壊れた校舎の中から机や椅子が集められた
 18. 北側校舎の残りが取り片付けられ一階教室の床板が見えた
 19. 材木の残りの小形のものが人々の協力で整理された
 20. 校庭西北隅より東方を写す整理も大分はかどった
 21. 校庭西北隅より川向を望む（中間に鯉江川）
 22. 校庭より東北隅を望む（白壁の建物は杉田家?）
 23. 整理のめどもついてきた土運びの御婦人連の活躍
 24. 整理により次々と出て来た本や練習帖の整理に大わらわ
 25. 校舎の後片付けも一応終り初登校
 26. 登校しても話は恐ろしかった颱風のことばかり！
 27. （解説文なし）
 28. 昭9. 9. 23 倒れた校舎跡かたづけ
- 手前は校地西北隅にあった鉄棒と砂場。右上の校舎は残った玄関の校舎。左上は蒲生町の民家。斜後の立樹は、川べりの木々で枝葉は飛散していた。校下各種団体総出勤の跡かたづけ。便所だけは白壁のまま立っていた。長い煙突は校地東空地にあった。
29. 昭和9. 9. 24 文部大臣来校
- 跡かたづけも終わった北校舎跡には床板が広々と

していた。その上にテント立てたあたりは死者が最も多かったところ。この日も曇天だった。

30. 昭和9. 10. 3 合同慰霊祭
- 大テントの中に並ぶ遺影と位牌。この日は雨だった。供花が立ち並び香煙けぶる祭場。冥福を祈り、涙をしぼる弔辞と読経。

IV. まとめ

大阪市内における「室戸台風被害写真」は朝日新聞社や地元出版社による特集号に掲載された写真以外に、絵はがき、大阪府が発行した「暴風水害状況写真」⁶⁾などがあり、これらは大阪市立中央図書館、大阪市立公文書館、大阪歴史博物館、大阪城博物館、千葉県立関宿城博物館などに所蔵されている。本稿で紹介した聖賢小学校蔵の30枚の写真は管見する限り新発見のものであり、貴重な被害写真といえる。

写真1から27までは卒業生の高橋正一氏により撮影されたものであったが、写真28から30の撮影者は不明であった。撮影期間は9月21日から9月24日、10月3日であった。撮影理由は本資料だけでは判然としないものの、写真29の文部大臣来校日、つまり9月24日以降は合同慰霊祭まで撮影記録が途切れるので、大臣への説明用として撮影していた可能性も考えられる。

なおこれらの写真から、周辺の民家、とくに鯉江川右岸沿いの民家の被害が小学校の被害に比べて軽微であることに気づく（写真4、5、6、7、8、10、21、22、23、29）。また写真18について、北校舎では床面積に対して柱が少ないように見受けられること、つかえ棒で校舎を支えていた事実⁷⁾などから、小学校が台風時などの一時避難所として適切でなかった可能性が高い。松田源治文部大臣来校日の「一体風速何mまでは校舎は安全と知っていたか。」⁷⁾という現場到着直後の質問からも読み取れる。また写真12には、水たまりが写っていた。これは竹神稲二郎の手記⁷⁾から高潮によって寝屋川の水位が上昇し校庭が浸水した痕跡と考えられる。

こうした写真資料の公開が、過去に起こった地域災害を学習するための一教材となればと考える。

謝辞

本資料作成にあたっては大阪市立聖賢小学校校長、甲斐清二先生には、所蔵資料の活用についてご確認を頂き

ました。また大阪歴史博物館の船越幹央学芸員には、室戸台風被害写真に関して、千葉県立関宿城博物館の鈴木敬子学芸員には、所蔵する絵葉書に関してそれぞれ有益な助言や情報を頂きました。記して謝意申し上げます。

なお本稿を、2018年度に創立100周年を迎えられる大阪市立聖賢小学校に捧げます。

注

- 1) 例えば大阪市役所監査部『大阪市風水害概要』大阪市役所監査部、1934、125頁。大阪市『大阪市風水害誌』大阪市、1935、1226頁。
- 2) 高木勇夫『条里地域の自然環境』古今書院、1985、238頁。
- 3) 鳴海邦匡・上田長生・大澤研一編『篠山藩青山家文書絵図目録』、2009、52頁。
- 4) 角川地名辞典「大阪府」角川書店、1983、1795頁。
- 5) 竹神稲二郎『昭和9年室戸台風による遭難の思い出』城東ライオンズクラブ、1983、31頁。
- 6) 例えば大阪府『暴風水害状況写真 昭和9年9月21日』大阪府、1934、60頁。上方郷土研究会編纂「上方」46（上方大風水害号）号、創元社、1934、76頁。朝日新聞社寫眞班撮影「週刊朝日臨時増刊（近畿大風水害寫眞画報）」朝日新聞社、1934、30頁。アサヒグラフ（関西大風水害画報）「昭和9年10月3日号、1934、「昭和九年九月二十一日 大風水害實況寫眞」、「昭和九年九月二十一日 大風水害實況寫眞（拾六枚組金十銭）」、「室戸台風実況絵はがき」。
- 7) 5) に同じ。



1. 九月二十一日残った校舎の二階の窓硝子に吹き付けられた泥砂、硝子を通して前方が見えない



2. 残った校舎と倒壊した校舎



3. 倒壊した校舎の下敷となって圧死した先生と生徒は24名と判明した



4. 颶風のものすごさ！どこから手をつけようかー



5. 倒壊した校舎の木材や瓦で足を入れる餘地もない



6. 残った校舎の二階から聖賢橋付近を望む



7. 倒壊して見る影もない北側校舎



8. 青年団員も召集されたが手のつけようもない



城東貨物線

正門前から聖賢
歩道橋への道



10. ご婦人方も自発的に協力され昼食のにぎり飯に励まれた
昭9. 9. 23跡片づけ放出

9. 青年団員はじめ在郷軍人も召集され有志方が自発的に整理に協力された



11. 運動場はやゝ片づけられたが取り除かれた材木は山とつまる



12. 少しは片付いたようだが材木の搬出はまだゝ



13. 御眞影の奉安庫(?)



14. 取除きの建物は最後の手段としてロープで引倒されて除去



15. ボーイスカウトの人達も協力した



16. 校舎の下から出て来た本や練習帖は青年団員によりまとめられた(お基の小休止のとき)
昭9. 9. 24残存玄関の入口



17. 壊れた校舎の中から机や椅子が集められた



18. 北側校舎の残りが取り片付けられ一階教室の床板が見えた



19. 材木の残りの小形のものが人々の協力で整理された



20. 校庭西北隅より東方を写す整理も大分はかどった



21. 校庭西北隅より川向を望む（中間に鯉江川）



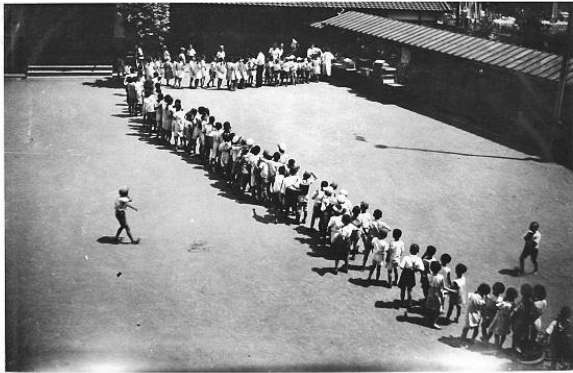
22. 校庭より東北隅を望む（白壁の建物は杉田家？）



23. 整理のめどもついてきた土運びの御婦人連の活躍



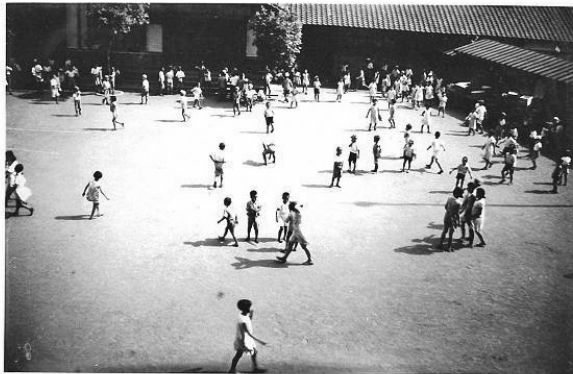
24. 整理により次々と出て来た本や練習帖の整理に大わらわ



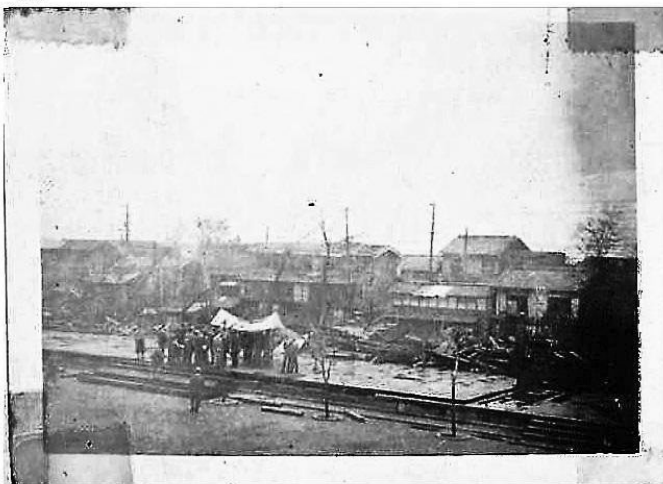
25. 校舎の後片付けも一応終り初登校



26. 登校しても話は恐ろしかった颶風のことばかり!



27.



28. 昭9.9.23倒れた校舎跡かたづけ
手前は校地西北隅にあった鉄棒と砂場。右上の校舎は残った玄関の校舎。左上は蒲生町の民家。斜後の立樹は、川べりの木々で枝葉は飛散していた。校下各種団体総出勤の跡かたづけ。便所だけは白壁のまま立っていた。長い煙突は校地東空地にあった。

29. 文部大臣来校
跡かたづけも終わった北校舎跡には床板が広々としていた。その上にテント立てたあたりは死者が最も多かったところ。この日も曇天だった。



30. 合同慰霊祭
大テントの中に並ぶ遺影と位牌。この日は雨だった。供花が立ち並び香煙けふる祭場。冥福を祈り、涙をしぼる弔辞と読経。